

安全・安心の取り組み

福岡県警察の取り組み

三大重点目標



シンボルマスコット:ふっけい君

暴力団のいない安全安心な街

暴力団の壊滅

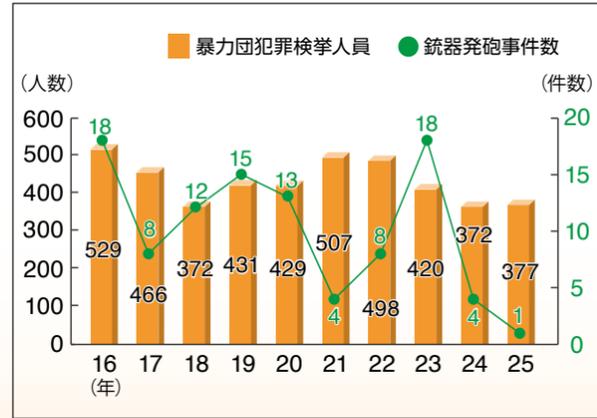
福岡県にとって、暴力団の存在は、最大の治安課題である。暴力団の壊滅に向けて、暴力団の取締りに総力を挙げるとともに、県警察が前面に立ち、行政、事業者及び県民と一丸となった暴力団排除活動を推進する。加えて、県民の安全確保に向けた取り組みを強力に推進していく。

平成26年度当初予算

暴力団対策費、暴力団排除推進費
384,826千円

(新)追加整備するスマートフォン解析装置等を使った暴力団員の徹底検挙、新規整備する画像分析システム、追加整備するパトカー動態管理システム(カーロケータシステム)等を使った保護対策のさらなる徹底等

■ 暴力団犯罪検挙人員・発砲事件数



県警本部長決意(平成26年2月定例会)

今春の組織改正において、北九州地区暴力団犯罪捜査課と北九州地区の警察署の暴力団対策の要員を増員するなど、暴力団犯罪捜査体制を強化した。

今後も引き続き、未解決の事件の検挙、全容解明に向け、組織の総力を挙げて強力に取り組んでまいります。また、暴力団による卑劣な凶悪事件の抑止に努めるとともに、県警察が前面に立ち、行政、県民の方々と一体となって暴力団排除活動をさらに強力に推進してまいります。

しない・させない・許さない

飲酒運転の撲滅

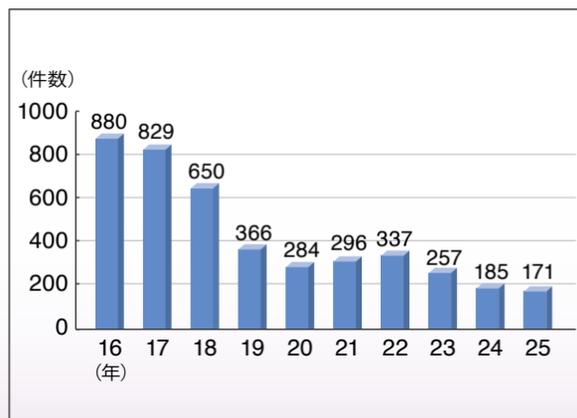
飲酒運転事故は減少しているものの、残念ながら未だ全国ワースト9位(平成25年12月末現在)と上位にあるため、飲酒運転撲滅に向けての啓発活動をさらに拡大する。

平成26年度当初予算

飲酒運転撲滅対策費
19,688千円

- 取締り強化のためのデジタル式アルコール測定器の整備
- ラジオ・映画館・街頭ビジョンによる広報啓発等

■ 飲酒運転事故発生件数



飲酒運転の厳罰化

自動車運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律(平成26年5月施行)

第3条 危険運転致死傷罪 アルコール薬物又は一定の病気の影響により、その走行中に正常な運転に支障が生じるおそれがある状態で運転し、人を死傷させる行為

第4条 過失運転致死傷アルコール等影響発覚免脱罪 アルコール薬物の影響により、その走行中に正常な運転に支障が生じるおそれがある状態で運転し、人を死傷させた場合に、その運転のときのアルコール等の有無や程度が発覚することを免れるべき行為をしたとき

12年以下の懲役

子ども・女性を守る

性犯罪の抑止

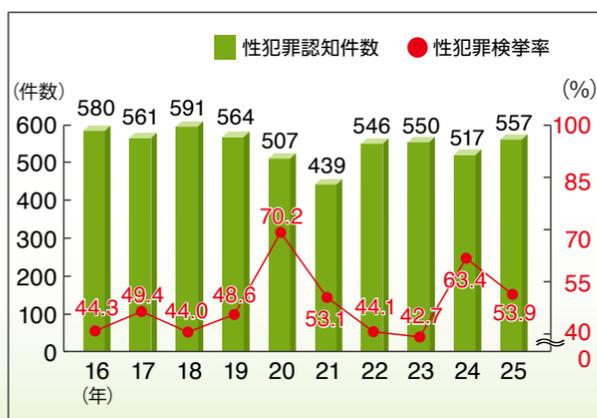
性犯罪の認知件数は依然として高水準で推移していることから、性犯罪を抑止するための啓発の推進、関係機関との連携強化、情報発信の充実を図るとともに、被疑者の検挙に向けた取り組みを強力に推進していく。

平成26年度当初予算

犯罪の起こりにくい社会づくり推進費、子どもと女性の安全対策費
26,203千円

- 取締り強化のための高性能捜査用カメラの運用経費
- DNA資料を採取するための捜査用資機材の整備

■ 性犯罪認知件数・検挙率



犯罪被害者相談電話

「ミズ・リリーフ・ライン」

犯罪の被害にあわれた方々の心のケアをお手伝いするダイヤルです。
TEL: 062-9621-7800
受付時間【月曜日】金曜日9:00~17:45(祝日・年末年始を除く)



飲酒運転撲滅に関する福岡県の取り組み



福岡県議会では、平成24年2月に会派を超えた議員提案によって、全国初の罰則付きの「福岡県飲酒運転撲滅運動の推進に関する条例」を制定しました。

これを受け県では、同年8月に「福岡県飲酒運転撲滅推進総合計画」を策定し、県、県警察、市町村、関係機関・団体が連携して飲酒運転撲滅運動を推進し、県民一人ひとりに「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない」という意識を定着させること、及び飲酒運転の要因となることも多いアルコール依存症等の予防措置を講じるとともに、アルコール依存症の治療促進を図ることを基本方針として、さまざまな取り組みを行ってきました。

平成25年の飲酒運転事故件数は171件となり、前年と比較して14件減少し、昭和40年以降最少となりました。こうしたことは、条例の施行と撲滅に向けた取り組みにより、飲酒運転撲滅意識が県民に広がったことの結果であり、対策の効果は上がってきています。しかしながら、飲酒運転は未だ後を絶たず、飲酒運転の撲滅は、極めて重要な課題です。

平成26年度の新規事業として、従来の飲酒運転撲滅キャンペーンに加え、毎月25日(飲酒運転撲滅の日)に新たに広報啓発活動を実施し、また若年者に対する啓発を進めるため、新たに飲酒運転撲滅活動アドバイザーを3年間で県内全164高校に派遣し、「飲酒運転は絶対しない、させない、許さない」という意識の徹底に取り組むこととしています。

さらに、飲酒運転撲滅宣言企業宣言の店の取り組み事例の紹介や啓発イベントに関する情報等をメールマガジンで配信する事業も開始しました。